

I. 平成22年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年3月～平成25年3月(5年)

1. 概況

- ・平成23年度から実施する第5次藤枝市総合計画において、中心市街地活性化を重点プロジェクトに位置づけ推進
- ・「駅前1丁目6街区」では、一部権利者による共同建替から周辺も含めた再開発を目指し、平成22年6月に「再開発準備組合」が設立
- ・平成22年3月に計画を変更し、2つの再開発事業を統合し「藤枝駅北口・日の出町地区市街地再開発事業」として位置づけ、平成22年8月に地元権利者の推進組織「再開発協議会」が設立
- ・活性化の拠点施設と位置付ける官民複合施設「B i V i 藤枝」が平成21年2月に、複合商業施設「オーレ藤枝」が平成22年2月に、さらに青木地区複合施設が11月にオープン。各種ソフト事業との相乗効果で予想を上回る集客を記録。特に、「オーレ藤枝」のテナントのひとつであるコンビニエンスストアにおいて、観光・特産品コーナーを新設するなど官民連携の取り組みを開始。また、7月には駅南近隣公園が完成、多くの住民が利用し、居住・子育て環境に貢献
- ・民間主導による街なか居住は20階建て159戸の超高層タワーマンションが着工するなど、順調に進んでいるが、今後は居住環境整備が課題
- ・駅南メインストリートのオープンモール化社会実験を継続実施（22日間で約7万人の来街者）、駅周辺イルミネーション（実施前後の週末の歩行者通行量は、5,000人を超える増加あり）を統一コンセプトのもと実施（週末は1日1万人以上の来街者）。さらに、足湯事業も実施するなど官民連携、市民協働による賑わい創出を展開
- ・駅前地区の早期活性化を図るため、平成21年11月に「藤枝市文化センター」のリニューアルを実施。市民の活動・交流拠点として活用され、平成22年度の利用者は順調に増加
- ・新たなスポーツイベントの誘致・連続開催事業により、集客力向上による活性化推進を図る
- ・総事業69事業のうち、19事業が完了し、43事業が実施中。7事業が未着手となっている

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち	歩行者通行量	6,755 (H18)	8,400 (H24)	8,898	③	③
	宿泊客数	41,488 (H18)	61,500 (H24)	111,341	③	③
結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち	公共施設利用者数	661,955 (H18)	947,000 (H24)	991,094	①	①

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

・歩行者通行量

進捗していない取組（市街地再開発事業）はあるものの、取組が実施された駅南地区の複合商業施設前では、前年比 42.8%増となり、2年続けて 40%以上の増加を記録。駅北地区（文化センター前）においても文化センターのリニューアル及び催事の開催等により増加がみられ、効果が発現されている。全体では前年比 61.5%増となり、目標値を約 500 人上回る数値を達成しており、今後もその他の取組を着実に進めることにより、目標値の達成は可能であると見込まれる

・宿泊客数

進捗していない取組はあるものの、既に目標値を 5 万人上回る数値（基準値より 7 万人増）を達成しており、現在の取組を持続することにより目標値の達成は可能であると見込まれる

・公共施設利用者数

取組の 1 つである新図書館が平成 21 年 2 月に開館し、目標を大きく上回る入館者数を記録している。さらには「藤枝市文化センター」のリニューアル（市民の活動・交流拠点として再生）を平成 21 年 11 月に実施し、平成 22 年度の利用者は順調に増加している。

その他の施設も取組を持続させることにより目標値の達成は可能であると見込まれる

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

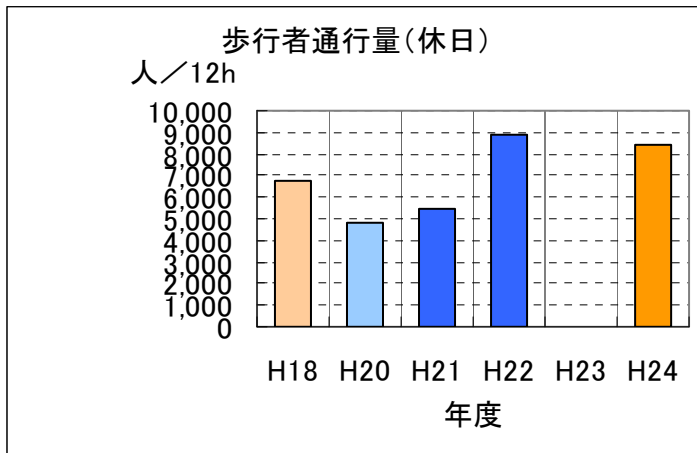
5. 今後の対策

- ・既に 3 指標とも目標値を上回る数値となっているが、今後の推移を見極めながら、目標年度においても確実に目標値を達成できるよう引き続き取り組みを推進する
- ・目標指標の数値は想定以上の数値を達成しているものの、一部の取組効果（イベントの実施等）発現により大きく数値を引き上げている要素があるため、その取組効果の維持とともに、全体効果としての目標達成となるよう、その他の取組も着実に進める
- ・拠点施設のハード整備による効果発現を維持し、さらなる拡大のため、様々な主体の連携によるソフト事業を継続的に展開する。また、一時的なイベントによる来街者数の増加を、恒常的な来街者増加に繋げるため、各取組間での連携を強化する
- ・「藤枝朝ラー軒研究会」や「駅南地区活性化協議会」等、市民や民間レベルでの自発的なまちづくりの取り組みが進んでいるため、今後はさらなる協働により各目標指標の達成に向けた取り組み効果を底上げする効果が期待される。
- ・市街地再開発事業等は、権利者の合意形成や事業手法の変更により事業が長期化し効果発現が遅れることが想定されるが、関係機関との連携や積極的な支援によりできる限り早期の事業化を目指す
- ・住宅供給に追いつかない公共サービス等の住環境整備を、市街地再開発事業等と連携して推進し、特に課題となっている駅北地区の賑わい、コミュニティ再生を図る
- ・認定後の状況変化等により、未着手となっている事業について、事業内容や事業手法の転換等を検討し、早期事業化を推進する

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	6,755 (基準年値)
H20	4,811
H21	5,509
H22	8,898
H23	
H24	8,400 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度2月実施）

※調査月；平成23年2月実施、3月取りまとめ

※調査主体；藤枝市

※調査対象；歩行者・ 休日の12時間（8:00～20:00） 駅南北主要4地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi 藤枝計画] (大和リース株)

(BiVi 藤枝施設整備事業)

事業完了時期	【済】 H20
事業概要	JR藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により図書館を含む官民複合施設「BiVi 藤枝」を整備。集客力のある民間施設（シネコン・商業店舗）と公益施設（図書館）の相乗効果で賑わいを創出
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年2月28日にオープン、初年度で年間目標来館者数120万人を上回る約164万人の来館者数を記録 平成22年度は月平均120,000人超の来館者で推移、施設前の歩行者通行量が前年度比で42.8%増加（2年連続40%超）

②藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi 藤枝計画] (大和リース株)

(BiVi 藤枝周辺地区活性化事業)

事業完了時期	【済】 H21
事業概要	市民参加型イベントや周辺地区連携イベント、公共交通連携イベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出、公共交通の利用促進を図る

事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年2～3月にオープニングイベント開催 ・スタンプラリーに周辺商店街の32店舗が参画し、671名が参加 ・平成22年2月に1周年記念イベント（クイズラリー等）を開催 ・今後も定期的にイベント（周年等）を開催
------------	--

③新図書館整備事業（藤枝市）

事業完了時期	【済】H20
事業概要	JR藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により整備する官民複合施設「BiVi 藤枝」の一部（約3,300㎡）を藤枝市が賃借し、収蔵能力30万冊の「藤枝市立駅南図書館」を整備
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年2月28日に開館、初年度で年間目標利用者数26万人を大きく上回る約50万人の利用者数を記録 ・平成22年度も月平均34,900人と目標を上回る来館者で推移、施設前の歩行者通行量が前年度比で42.8%増加（2年連続40%超）

④藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業〔新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト〕（有）新日邦
（ABC街区複合施設整備事業）

事業完了時期	【未】H22
事業概要	JR藤枝駅南口に隣接する市有地を民間活力導入により有効活用し、市の顔にふさわしい都市機能（ホテル、温浴施設、CATV放送センター、フィットネスクラブ、商業店舗等）が集積する拠点施設を整備する
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅰ期事業であるA街区複合施設（CATV放送センター、フィットネスクラブ、商業店舗等が入居）が平成22年2月24日オープン。初年度目標入場者数1,200人（一日あたり）を大きく上回る1,900人で推移 ・第Ⅱ期事業であるBC街区複合施設（ホテル、温浴施設、商業店舗等が入居）について、昨今の経済情勢や収益性確保、都市計画手続の必要性から着工が遅れており、今後、事業者と事業計画推進について協議を進め、早期着工を目指す。計画期間内での効果発現は困難 ・当事業のため掘り出した天然温泉を暫定活用した「足湯施設」は、オープン（平成22年11月）以来、3ヶ月で1万人を超える利用者（1日平均120人、1日最高230人）があり、賑わいづくりに貢献

⑤藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業〔新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト〕（有）新日邦
（ABC街区周辺地区活性化事業）

事業完了時期	【済】H21
事業概要	周辺地域・商店街連携した市民参加型イベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出を図る

事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年8～9月に市民参加型イベント「ぐるぐるグルメ de QR」を開催。中心市街地の飲食店100店が参画し、1,425人が参加 ・平成22年11月には官民連携による「駅周辺イルミネーション事業」に参画、前述の「足湯事業」と併せ、賑わい創出に貢献。平成23年3月には、1周年イベントを開催
------------	---

⑥藤枝駅前一丁目6街区市街地再開発事業（再開発組合）

事業完了時期	【未】H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅前商店街の中心的な立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・認定後、事業区域等の拡大や事業手法の変更があったが、計画期間内での事業化に向けて、合意形成・計画推進を図る ・平成21年3月に地元組織「藤枝駅前一丁目6街区再開発協議会」設立 ・平成21年度に再開発基本計画策定 ・平成22年6月に準備組合設立、同10月には事業協力者として静岡鉄道(株)を選定 ・平成23年度、都市計画決定、組合設立

⑦藤枝駅北口・日の出町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業完了時期	【未】H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅北口広場に面する立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
事業効果又は進捗状況	<p>計画期間内での事業化に向けて、意形成、計画推進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 再開発基本計画策定 ・平成22年8月に地元組織「藤枝駅前一丁目8街区再開発協議会」設立 ・平成23年度に準備組合設立、平成24年度に都市計画決定

⑧文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

事業完了時期	【済】H21
事業概要	施設の老朽化により利用度が低下した「藤枝市文化センター」の耐震・改修を行い、市民交流センターや展示場、ホール等を整備し、市民の活動・交流拠点として再生させる
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年11月に改修工事終了。リニューアルオープン後4ヶ月で約4万人の利用者数を記録 ・平成22年度の利用者数も月11,000人超で推移、施設前における歩行者通行量が前年度比で462%増加

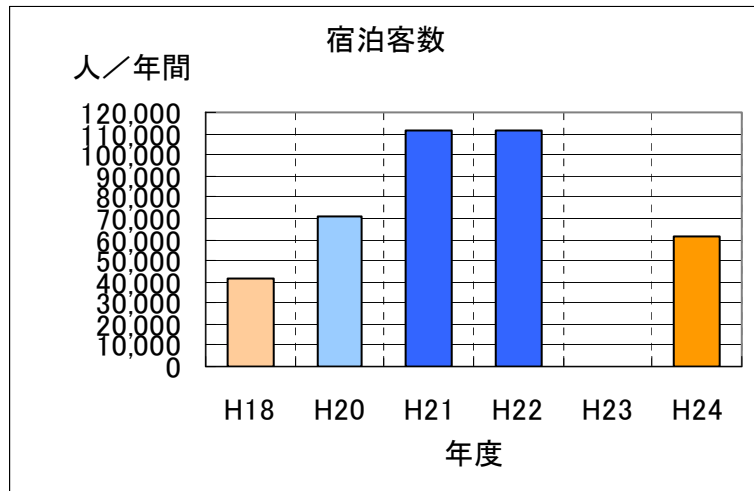
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 取組が実施された「B i V i 藤枝」前で 42.8%増、「文化センター」前で 467%増と効果が発現され、全体では前年比 61.5%増、目標値を約 500 人上回る数値を達成しており、今後も着実に取組を進めることにより目標値達成は可能であると見込まれる
- ・ 今回、駅北地区の文化センター前での歩行者通行量が飛躍的に増加したが、要因として文化センターのリニューアルと併せ、調査日に当センターにおいて多くの催事が実施されたことによるもので、それは基準値年（2,146 人）と同様の条件であり、その比較は 29%増となっている。また、この間の2年間の数値が 497 人、592 人と激減しているのは、文化センターが「休館日」及び「催事なし」の日に調査しており、催事及びイベント実施等が大きく数値を引き上げている要素であることが推測される
 今後は、その取組効果の維持とともに、全体効果としての目標達成となるよう、その他の取組も着実に進める必要があり、様々な主体の連携による継続的なソフト事業の実施等により、恒常的な通行量の増加を図る
- ・ 大型商業施設や公益施設への来場者について、想定より自動車利用が高い上、周辺への回遊が発生せずポイントでの集客となってしまっているため、駅周辺の大型施設事業者等により平成 20 年に組織された「駅南地区活性化協議会」等と協働、連携した取り組みを推進し、街なかの回遊性を高める
- ・ 課題となっている駅北地区の再生を図るため策定した「市街地総合再生計画」に基づき市街地再開発（藤枝駅前一丁目 6 街区及び藤枝駅北口・日の出町地区）の早期事業化に向けて推進する。また、「連鎖型市街地整備方針（市）」「環境に貢献するまちづくり方針（市）」と一体的に取り組むために、平成 23 年度より「駅前地区市街地総合再生会議（ハード事業）」及び「駅前地活性化連絡会議（ソフト）」を立ち上げ、「民間企業も含めた多様な主体によるハード・ソフト事業を検討していく
- ・ 民間による大型住宅供給事業や業務機能整備事業の支援により、街なかの居住者や従業者の増加を図り、恒常的な歩行者通行量の増加に結びつける

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	41,488 (基準年値)
H20	71,038
H21	111,555
H22	114,341
H23	
H24	61,500 (目標値)

※調査方法；宿泊客数調査

※調査月；平成22年4月調査・取りまとめ

※調査主体；藤枝市

※調査対象；中心市街地内の7ホテル①藤枝パークインホテル ②ビジネスホテルイレブン

③フジエダオガワホテル ④藤枝サザンホテル ⑤ホテルルートイン藤枝駅北

⑥セラム41プラザホテル (H20.6閉館。H20.12に「ビジネスホテルふじえだ泊」としてオープン)

⑦東横イン藤枝駅北口 (H20.10オープン)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業 [新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト] ((有)新日邦)
(ABC街区複合施設整備事業)

【再掲】P4 参照

- ②全日本女子剣道選手権大会開催事業 (全日本剣道連盟、静岡県剣道連盟)

事業完了時期	【実施中】H17～H26
事業概要	女子剣道の全国大会を中心市街地内に立地する静岡県武道館で毎年開催 中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	・毎年9月に開催 (H22.9.26開催) 選手役員215人、来場者数2,000人 ・宿泊客数 (計画：354人、H22:330人) 概ね計画通り

- ③全国シニアサッカー大会誘致・開催事業 (藤枝市、日本サッカー協会ほか)

事業完了時期	【実施中】H20、H22～H26
事業概要	シニアサッカーの全国大会 (50歳～70歳代) を誘致し、毎年開催 中心市街地における交流を促進する

事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年 5 月に 3 日間開催 ・ 平成 22 年 5 月 28 日～30 日（2 大会×16 チーム 640 名参加） ・ 宿泊客数（計画：3,561 人、H22:1,600 人）
------------	--

④日本スポーツマスターズ 2009 静岡大会開催事業（日本体育協会ほか）

事業完了時期	【済】H21
事業概要	シニア世代を対象にしたスポーツの祭典。本市ではサッカー大会、空手道大会を開催。中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 21 年 9 月 18～22 日の 5 日間開催。延 1,200 人が参加 ・ 宿泊客数（計画：4,857 人、H21:4,600 人） 概ね計画どおり

⑤ライフル射撃選手権大会誘致・開催事業（藤枝市、日本ライフル射撃協会ほか）

事業完了時期	【実施中】H19～
事業概要	ライフル射撃の全国大会を誘致し、毎年開催。中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 22 年 5 月 8～9 日、全日本選抜大会開催。164 人参加 ・ 同年 7 月 3～4 日、マスターズジャパンカップ開催。122 人参加 ・ 同年 7 月 16～19 日、全日本クラブ対抗大会開催。480 人参加 ・ 同年 10 月 16～17 日、全日本マスターズ開催。146 人参加 ・ 同年 11 月 19～21 日、全日本クラブ対抗大選抜会開催。394 人参加 ・ 宿泊客数（計画：2,340 人、H22:4,000 人） 大会誘致による宿泊者増

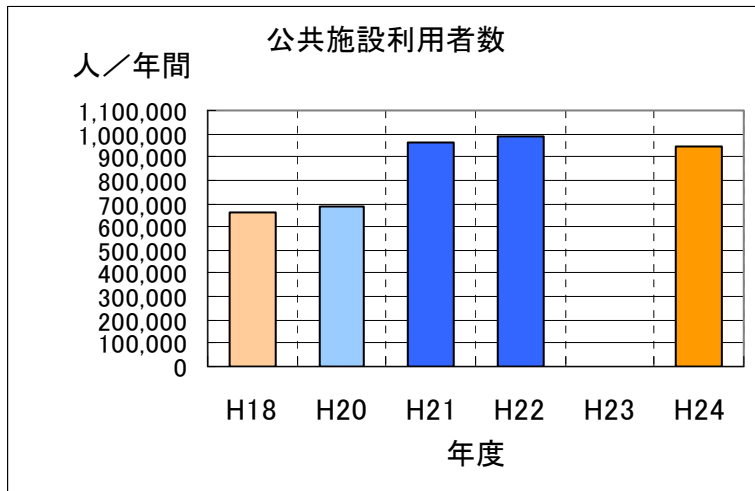
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 大規模なホテル建設が含まれる取組（藤枝駅南口西地区 ABC 街区開発事業第 II 期事業）が進捗していないものの、その他新規供給のホテルが順調に稼働し、心配された既存ホテルの宿泊客流出が起こらず従来の稼働率を確保しており、全体として大幅な宿泊客増となっている
今後、現在の状況を持続させることにより目標達成は可能であると考え、新規供給後の一時的な効果発現も考慮し、暫く推移を見極めながら目標年度において確実に目標数値を達成できるよう引き続き取り組みを推進する
- ・ 引き続き大規模スポーツ大会の誘致・開催に併せておもてなし事業を推進し、安定した宿泊客数と交流の創出を図る
- ・ 青木地区複合施設を中心に、観光協会や旅行代理店、旅館ホテル組合、飲食店組合等と連携して宿泊や土産、バンケットやコンベンション、レセプションを一元的かつ戦略的に斡旋するネットワークを形成し、宿泊客数の増加や周辺商業への波及を図る
- ・ 平成 21 年 6 月に富士山静岡空港が開港したため、ビジネス客や観光客の誘導を積極的に行い、宿泊客数の増加に努める。同空港の利用者は、需要予測の 138 万人を大幅に下回り 45 万人と低迷しているが、県の利用促進事業との連携、旅行代理店や航空会社への働き掛けにより、空港利用者の効果的な誘導を行う。さらに、空港アクセス道路の開通（平成 23 年度以降）に合わせ、県やバス事業者等への働き掛けにより JR 藤枝駅からのアクセスバス誘致を行い、宿泊者の利便性を向上させる

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち」

「公共施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	661,955 (基準年値)
H20	685,666
H21	963,559
H22	991,094
H23	
H24	947,000 (目標値)

※調査方法；公共施設利用者数調査

※調査月；平成22年4月調査：・取りまとめ

※調査主体；藤枝市

※調査対象；中心市街地内の5公共施設

- ①藤枝市民体育館 ②藤枝市武道館 ③静岡県武道館 ④藤枝市文化センター⑤藤枝市立駅南図書館

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①新図書館整備事業（藤枝市）

【再掲】P4 参照

②文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

【再掲】P5 参照

③市民体育館耐震化事業（藤枝市）

事業完了時期	【実施中】H22～
事業概要	経年劣化・耐震化が課題となり地域防災拠点としての機能が低下している本施設の耐震補強による再生により、市民の身近なスポーツ・健康づくり、子育て・交流の場の提供、安全安心な住環境の向上に寄与す。
事業効果又は進捗状況	・平成22年度 実施設計実施 ・平成23年度～ 工事実施

④文化センター生涯学習事業（藤枝市）

事業完了時期	【未】H21～
事業概要	社会教育の自主事業を行うことで、市民の交流・コミュニティ形成、生きがいの場づくりを行う
事業効果又は進捗状況	平成21年に「藤枝市文化センター」の耐震・改修を実施。2階会議室を廃止し、市民活動交流フロアとして活用。入居団体が独自の事業を展開しており、事業実施については今後の館利用状況をふまえ検討必要 平成22年度の利用者数は132,523人と工事施工前の平成22年度と比較すると約29,000人増加している

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 全体的に取組の進捗状況は順調であり、今後さらなる対策を講ずることにより、目標達成可能であると見込まれる
- ・ 新図書館の整備が平成21年2月に、文化センターの再整備が平成21年10月にそれぞれ完了し、利用者が大幅に増加。さらに平成23年度の市民体育館耐震化事業により、利用者増加を目指す
- ・ 文化センターは市民の活動交流拠点として、入居団体と周辺商店街等との連携を深め、地域ぐるみで利用促進を図る
- ・ 新図書館は民間商業施設との複合施設のメリットを生かし、シネマコンプレックスでの上映作品との連携イベント等を開催して付加価値を高め、利用者数の維持、更なる利用拡大を図る
- ・ 利用者数が減少に転じる施設も存在するため、類似施設の指定管理者間の連携を強化し、各施設の一体的な利用等を促進する。また、実施されるイベントにより利用者数が大きく上下する傾向にあるため、イベント誘致やスポーツ・文化教室等のソフト事業の充実により、施設の利用者増に努める